

◆ 2021 年 度 活 動 報 告 シ ー ト ◆

団体名：認定 NPO 法人 川口市民環境会議

24A-22

代表者：代表理事 浅羽 理恵

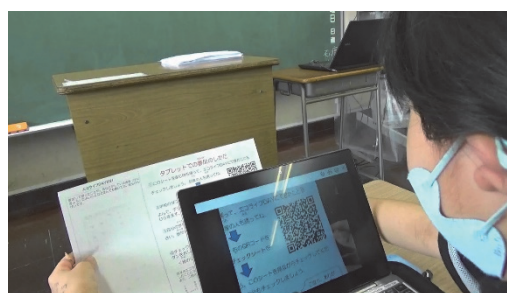
URL : www.ne.jp/asahi/eco/ecolife

1. 活動が必要とされた状況

- ① エコライフ DAY のデジタル化の市内全学校での実施に先立ち、モデル校を選定して児童生徒が各自の学習用タブレット端末を使用した実証試験を行う必要があります。
- ② 市内の小・中・高校生が三密を避けつつ、環境活動を発表し環境について学びを深められるように「子ども環境フォーラム 2021」をオンラインで開催する必要があります。

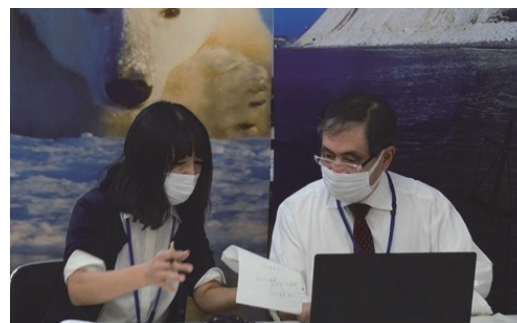
2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

- ① エコライフ DAY のデジタル化の推進
・ 6 月のエコライフ DAY において、安行小学校の協力を得て実証試験を行い、約 900 人の児童生徒が「手引き」の QR コードにより各自のタブレット端末を使ってデジタル版チェックシートのプログラムを呼び出し、入力・送信することができました。
・ 同試験の結果を受け、2022 年からの全校での実施について、市内全教職員約 3,000 人に周知しました。



QR コードでのプログラム読み込み

- ② 子ども環境フォーラム 2021 の開催
〈実施期間〉 2021 年 11 月 13 日（土）
〈発信場所〉 川口市地球温暖化防止活動推進センター・リサイクルプラザよりオンライン配信
〈参加人員〉 195 名
〈活動内容〉 第一部の環境活動発表では、高校生の 2 クラブを含めた 6 グループの発表を事前録画と LIVE で配信しました。第二部のリレー式ワークショップ「地球と生きものたちの話」では、①大昔の生きものと大量絶滅の話、②生物の多様性—ひとつのどんぐりから、③川口の自然の話（見沼自然の家周辺から）、④SDGs の話の 4 テーマについて、8 名の講師が LIVE 配信しました。



子ども環境フォーラムの配信の様子

3. 活動の成果

- ① デジタル化の実証試験では、児童生徒が各自の端末を上手に使うことで操作が行えたこと、紙シートの集計とほぼ同一が確認でき、来年度の全校デジタル化に向け前進できました。
- ② 子ども環境フォーラム開催では、市内 44 校、159 名の児童生徒から参加を得ることができ、また、参加者アンケートで 82%の方から「内容が良かった」との評価を得ました。

4. 今後に残された課題

- ① デジタル化では、日本語を母国語としない生徒への英語版を含め、環境教育の教材としてエコライフ DAY の結果を迅速に提供する必要があります。
- ② 子ども環境フォーラムでは、インターネットで開催する場合には、よりスムーズな配信に努めるとともに、パソコンや通信環境の整った本部を選定する必要があります。